

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒114-0013 東京都北区東田端 1 - 12 - 3
稲垣ビル 5F セフティレビュー内
TEL (03) 5855-0260
FAX (03) 5855-0261
MAIL toukankyo@mbs.sphere.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

★ 新年のご挨拶

- ・ 東京都環境計量協議会 会 長 鈴木 幹夫
- ・ 東京都計量検定所 検査課長 高橋 宏栄
- ・ 日本環境測定分析協会 会 長 田中 正廣

★ 平成 26 年 東環協賀詞交歓会報告

★ 第 25 回環境測定事例発表会報告

★ 「都民計量のひろば」報告

★ 関係機関・団体の動き

- ・ 首都圏環境計量協議会連絡会
- ・ 神奈川県環境計量協議会
- ・ 埼玉県環境計量協議会
- ・ 千葉県環境計量協会
- ・ 日本環境測定分析協会

★ 東環協からのお知らせ

- ・ 平成 25 年度第 2 回親睦ゴルフ大会報告
- ・ 平成 25 年度：今後の主要行事予定
- ・ 平成 26 年度：今後の主要行事予定
- ・ 事務局からのお知らせ

新年のご挨拶

『新年挨拶』

東京都環境計量協議会
会 長 鈴木 幹夫



鈴木会長

みなさま 明けましておめでとうございます
平成 26 年の賀詞交歓会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日は年の初めの大変お忙しい中、会員の皆様ならびに協賛企業の皆様には、多数ご参加いただきまして誠に有難うございます。東京都計量検定所から高橋様、日本環境測定分析協会からは、田中会長、津上関東支部長に御臨席いただき、心より感謝申しあげます。

今年の新年は東京では良い天気にも恵まれましたが、皆様の過ごされた所はいかがだったでしょうか。

昨年の大きな出来事としては政治・経済では、7月の参議院選挙で自民、公明両党が過半数を確保し、安倍政権の安定した運営が滑り出しました。アベノミクスの「大胆な金融緩和」と「機動的な財政政策」が効果を発揮し、金融市場は、株高、円安となりましたが、これからの中長期的な経済成長に重要な「成長戦略」については不透明感があります。

スポーツでは、2020年のオリンピック、パラリンピックが東京で開催されることが決まり、かなりの経済効果が見込めるのではないかと思います。

また、富士山の世界文化遺産の登録といった明るい話題もありました。

環境測定に関しては、JISK0102 工場排水試験方法及び、告示 13 号の産業廃棄物に含まれる金属等の検定法が改訂されました。また、水生生物の保全に係る環境基準に直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩が追加になり、大気では、PM2.5 が問題となりました。年末には、放射能物質のモニタリングが大気汚染防止法及び水質汚濁防止法の中に組み込まれました。

当協議会の活動としましては、昨年は、毎年行っている新任者教育を千葉県、埼玉県の協議会と共同で実施しました。研修見学会、技術研修会、技術事例発表会を行い、事例発表会では、計量検定所において「計量証明事業所への立ち入り状況」をお話ししていただきました。

また、皆様も、すでに見ていただけたと思いますが、協議会のホームページには、協議会の情報だけでなく、公官庁などの情報も毎月更新して新しい情報を乗せておりますので利用してください。

今年、平成 26 年の私たちの業界に關係する状況を予測するのは、なかなか難しいのですが、環境省の 26 年度予算は、9,736 億円と 1 兆円を少し割り込んだ予算となっております。内容的には、東日本大震災からの復旧、復興及び震災の教訓を踏まえた防災、減災と低炭素・循環・自然共生の同時達成を目指す総合的取り組みの推進となっております。私たちに關係する環境測定では、

放射能分析、アスベスト、低濃度 PCB、PM2.5などに予算が付けられているようです。

今年の干支である「甲午（きのえうま）」の甲は、植物の種のようにかたい殻を意味しているそうです。また、物事の始まりを意味していますが、馬という事で駿馬のように飛躍、発展できる年にしたいと思います。

最後になりましたが、会員各社、協賛企業の益々のご発展と、ご参会の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

『新年挨拶』

東京都生活文化局計量検定所
検査課長 高橋 宏栄



高橋課長

皆様、新年あけましておめでとうございます。

ただいまご紹介を賜りました東京都計量検定所検査課長の高橋でございます。

本日は、このように賀詞交歓会が盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。

また、この場にお招き頂きまして誠にありがとうございます。東京都環境計量協議会の皆様方には、日頃から私どもの業務に対しまして、大変深いご理解とご協力、多大なご支援を頂いております。

一例を申し上げますと、東京都計量検定所におきましては、11月1日を計量記念日としまして、計量に関する普及啓発に努めております。昨年の11月に新宿駅西口の地下広場におきまして、この普及啓発事業を行いました。この際、東京都環境計量協議会の皆様方には大変なご尽力を頂きました。

この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

私どもの東京都計量検定所でございますが、これまでもご案内させて頂きましたが、今月から庁舎が港区海岸一丁目から江東区新砂三丁目に移転しまして、現在、業務を行っております。この移転に際しましては、皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。皆様方のご協力を頂きまして、無事に移転することができました。誠にありがとうございました。

私ども東京都計量検定所におきましては、今後とも適正計量の確保に努めてまいりますので、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東京都環境計量協議会様の益々のご発展と、本日ご参会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、はなはだ簡単ではございますが、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

『新年挨拶』

(一社)日本環境測定分析協会
会 長 田中 正廣



田中会長

日環協の田中です。東京都環境測定分析協議会の皆様へ紙面をお借りして新春のご挨拶をさせて戴きます。昨年5月に日環協の会長に就任後、会員の皆様並びに県単の方々に支えられてなんとか半年が過ぎました。会員の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

先月の1月21日の新春交流会では大変お世話になりました。協会の会誌1月号にも触れさせていただきましたが、アベノミクス効果をマスコミでは持ち上げられてはいますが、東日本復興等に伴う建設業界のアンバランスが顕著化して地方では建設案件があっても着手できない話をいたるところで聞きます。私ども地元でも50億円のスポーツセンターの入札が2回にわたって不調となり、70億円に予算をアップして再度入札の手続きの準備に入ったというニュースを耳にするとアベノミクスも斑模様を呈してきている感が拭いきれません。私達の業界や地方への普及効果が目に見えるようになるのか不安にもなりますが、関東圏以東は、それなりのいい情報もお聞きしています。

さて、日環協の活動について幾つかご紹介させていただきます。まず、昨年度の議論の中から、昨今のあまりにも行き過ぎた低価格競争の1つの歯止めになればということで、各支部長と県単会長との共同で「入札制度への最低制限価格の導入の要望」を「発注者側の入札参加者の技術評価」とともにこれから活動をして戴けるような段階へととなりました。平成26年度は、「技能試験」「環境測定分析士」の「価値・評価」の向上への取り組みを更に強く進めるべきと考えております。これは、適性で精度の高い分析技術の維持や技術者の養成に力を入れている事業者の方の評価をアピール出来る方法のひとつであるとの思いからです。昨年11月末にバルセロナでのUIILの総会に参加して、オランダやスペインの協会の方々から話の中で、発注者責任、受託者責任の元で分析業務が行われる時の判断基準の1つに技能試験への参加やISO17025の取得を挙げておりました。計量法で守られている国内においても、今後グローバル化の波がきた時に、適性に堅実な品質をもつ分析会社をアピール出来るもの1つとして今からでもさらなる取り組みの推進をすべきと痛感して帰ってきました。

会長への就任以来、お話を出させて戴いていますが、「今後の日環協の活動には各地区の県単の方々とのコラボや情報交換が必要」と考えています。県単として最大規模の貴協議会との連携は今後はさらに重要と感じていますので、これからも日環協へのご支援をよろしくお願い申し上げます。末尾になりますが貴会員の皆様のさらなる活躍を祈念して新春のご挨拶と代えさせていただきます。

平成 26 年 東環協賀詞交歓会報告

新年あけましておめでとうございます。春の訪れのような麗らかな気候の中、東京都環境計量協議会は、本年のスタートを切らせて頂きました。本年の新春懇談会におきまして、会員 31 社 65 名、来賓・協賛企業の方々を会わせ、総勢 73 名の皆様にご参加頂きました。

日 時 : 平成 26 年 1 月 21 日 (火) 18:30~20:30

場 所 : スクワール麹町 5 階 「芙蓉の間」

はじめに、鈴木会長より挨拶、来賓の紹介。今年の来賓は、東京都生活文化局計量検定所・検査課長の高橋宏栄様、(一社)日本環境測定分析協会・会長の田中正廣様、同協会・関東支部長の津上昌平様、東環協顧問・三階貴男様にご参加頂きました。

ここで来賓を代表いたしまして、東京都生活文化局計量検定所・検査課長の高橋宏栄様、(一社)日本環境測定分析協会・会長の田中正廣様よりご挨拶を頂戴いたしました。

田中会長に激励のお言葉を頂き、お待ちかねの乾杯です。津上関東支部長より乾杯のご発声を頂きました。一年の祈りを込めてビールを飲み干し、懇親会が始まりました。たくさんのごちそうを前に、お酒を交わしたり、名刺交換をする姿も見受けられました。



乾杯！のご発声をする津上関東支部長

普段お話しする機会のない他企業の皆さんと会話することで、共感できるところや、新たな発見をすることもあったかもしれませんね。すっかり顔馴染みのみなさまも、近況などを話しながら賑やかに過ごされているようでした。

一方、ステージでは、お忙しい中ご参加の協賛企業の方々から一言ずつ、挨拶を頂戴しました。関東化学(株)の皆様、竹田理化工業(株)の皆様、いつもありがとうございます。今後も、何卒宜しくお願い致します。

さて、再び歓談となったのも束の間、恒例のビンゴ大会です。一位獲得の賞品は、大好評「お米券」です!!その他、大小さまざまな包み紙が並べられていました。



番号を読み上げる司会者

「リーチ!」との声があがり、前方に集いつつもなかなかビンゴには至らず…とはならず、今年は早々に一名の方が「ビンゴ」となり、前に出て、一言あいさつして頂きました。

二番手以降もちろほらビンゴとなり、みなさまの手に賞品が手渡されていきました。中にはラッキーなことに一位と同じ「お米券」を運良く手にされた方もいらっしゃいました。

今年は早々に「ビンゴ」となった方がいる一方で、残念ながら最後まで「ビンゴ」とならなかった方も一人残り、こちらからも一言あいさつとなりました。この後、賞品が3つ残りましたので、全員参加のじゃんけん大会となりました。終盤は、勝ち残り4名いるのに賞品は3つ。じゃんけんはさらに続き、最後の賞品をゲットしたのは、なんと津上関東支部長でした。



じゃんけんする勝ち残り4名



佐藤副会長による中締め

大いに盛り上げて下さった司会者への盛大な拍手で、この春のメインイベントは無事に終了しました。

20時に差し掛かったころ、佐藤副会長による中締めの挨拶をして頂きました。「神田一本締め」を行い、大盛況のうちに新春懇親会はお開きとなりました。

本年は会員の皆様の集合がとてもスムーズで、開始も終了も定刻より早く終わることができました。皆様の普段からの俊敏な仕事ぶりを表されているように思えました。

ご参加頂いた会員の皆様、協賛企業の皆様、ありがとうございました。

会員各社ならびに関係者の皆様にとりまして、駿馬の如く駆け巡りつつも一切無事故で、より実りの多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

本年も、どうぞよろしくお願ひ致します。

平成 26 年 東環協賀詞交歓会 次第

(敬称略)

- | | | | | |
|-----------|---------------------------------|-------------|----------------|---------|
| 総合司会 | 東京都環境計量協議会 | 副会長 | 竹田 良平 | |
| 1. 開 会 | | | | 18 : 30 |
| 2. 開会挨拶 | 東京都環境計量協議会 | 会 長 | 鈴木 幹夫 | |
| 3. 招待者紹介 | | | | |
| 4. 来賓挨拶 | 東京都生活文化局計量検定所
(一社)日本環境測定分析協会 | 検査課長
会 長 | 高橋 宏栄
田中 正廣 | |
| 5. 乾 杯 | (一社)日本環境測定分析協会 | 関東支部長 | 津上 昌平 | 18 : 50 |
| 6. 協賛企業紹介 | ・ 関東化学(株)
・ 竹田理化工業(株) | | | 19 : 30 |
| 7. ビンゴ大会 | | | | 19 : 40 |
| 8. 中 締 め | 東京都環境計量協議会 | 副会長 | 佐藤 隆 | 20 : 15 |
| 9. 閉 会 | | | | 20 : 30 |

平成 26 年 東環協 賀詞交歓会出席者名簿

平成 26 年 1 月 21 日 (火)

於 スクワール麹町 3 階「芙蓉の間」

来 賓

東京都生活文化局計量検定所	検査課長	高橋 宏栄	様
(一社)日本環境測定分析協会	会 長	田中 正廣	様
(一社)日本環境測定分析協会	関東支部長	津上 昌平	様
東京都環境計量協議会	顧 問	三階 貴男	様

会 員

No.	会 社 名	氏 名	備 考
1, 2 3	いであ(株)	鈴木 幹夫、海老澤 隆宏 中川 雄太	
4, 5	(株)伊藤公害調査研究所	伊藤 具厚、鳥井 和彦	
6	エヌエス環境(株)	泉 健司	
7, 8	(株)オオスミ	田口 和男、鈴木 典子	
9	(株)化学分析コンサルタント	日山 貞由紀	
10, 11 12, 13	(株)環境管理センター	斉藤 徹、青木 博 平賀 積善、上杉 哲也	
14, 15	(株)環境技研	佐藤 好明、岡澤 正彦	
16, 17	(株)環境技術研究所	中村 勉、小柳 伸彦	
18, 19	(株)環境総合テクノス	小牧 博信、種 鎮矢	
20, 21	環境リサーチ(株)	熊澤 昇、綿谷 友宏	
22, 23 24, 25	三洋テクノマリン(株)	佐賀 一芳、矢治 正司 吉永 和男、藤身 諭	
26, 27	(株)島津テクノリサーチ	吉田 秀司、山下 君輝	
28, 29	新日本環境調査(株)	川岸 邦充、佐藤 誠一	
30, 31 32	(株)総合環境分析	石渡 裕、安藤 弘昭 井上 和之	
33	(株)長大	星山 貫一	
34, 35 36	(株)東京環境測定センター	五十嵐 鋼、中畑 隆 西村 隆夫	
37, 38	(株)トーニチコンサルタント	川東 光三、酒井 多恵子	
39	(株)日新環境調査センター	池田 郁司	
40, 41	日本エコテック(株)	宮崎 恒雄、西澤 秀男	
42, 43 44, 45	(株)日本公害管理センター	松倉 達夫、田中 泰博 大柄 雅浩、長岡 秀和	
46	(株)日本総合科学	小川 正一	
47, 48	(株)日本分析	平 隆道、池田 達也	
49, 50 51	ヒロエンジニアリング(株)	竹田 良平、久木元 威仁 石原 紀子	

52, 53	(株)分析センター	佐藤 隆、奥富 康浩	
54, 55	ムラタ計測器サービス(株)	清水 慶治 池上 匡	
56	明治コンサルタント(株)	山本 義男	
57, 58	ユーロフィン日本環境(株)	石山 直樹、田口 紀子	
59, 60	ビーエルテック(株)	赤沼 英雄、岡野 勝樹	賛助
61, 62 63	松田産業(株)	吉川 栄一、松原 稔郎 秋谷 輝久	賛助
64	メルク(株)	金子 静知	賛助
65	ラボテック(株)	金田 耕一	賛助

31社 65名

協賛企業

No.	会社名	氏名	備考
1, 2	関東化学(株)	土屋 公平、多田 新之介	
3, 4	竹田理化工業(株)	竹田 影、坂 達郎	

2社 4名

来賓 4名

合計 73名



賀詞交歓会・会場の様子

第 25 回環境測定技術事例発表会報告

第 25 回環境測定技術事例発表会は、平成 25 年 11 月 8 日(金)に四ツ谷「スクワール麴町」の 5 階「芙蓉の間」で開催されました。今年も好天に恵まれての事例発表会となり、会員 25 社 54 名、協賛企業 7 社、発表者・来賓を含め総数 79 名が参加しました。

来賓として、東京都計量検定所 検査課 高橋課長、同 環境計量器検査係 清水係長、大阪環境測定分析事業者協会からは石田会長、松岡技術委員長及び孫本副技術委員長にご出席頂きました。佐藤副会長による開会宣言の後、鈴木会長から主催者挨拶、続いて来賓を代表して東京都計量検定所の高橋検査課長からご挨拶を頂きました。

東環協 鈴木会長の挨拶



鈴木会長

みなさま、おはようございます。第 25 回環境測定技術事例発表会にご参加いただきましてありがとうございます。

11 月に入り、急に寒くなってきましたが 10 月には 30℃を超える日が有り、また、夏には台風、竜巻、局所的な豪雨が有るなど、気象災害が多くなってきたように思えます。これが、地球温暖化とどのように関係するかは明確ではありませんが、先日発表された ICPP の第 5 次報告にも地球温暖化のシナリオが提示されており、私たちも、省エネなどを通して、温暖化ガスの排出の抑制には、積極的に取り組みたいところです。

最近の環境の問題としては、放射能汚染がまず挙げられます。今年の 6 月に大気汚染防止法及び水質汚濁防止法の改正が行われ、放射性物質による大気汚染の状況並びに公共用水域及び地下水の水質の汚濁状況の常時監視を行うこととなりました。この法律の対象は放射性セシウムだけでなく、放射性核種となっており、今年中に施行されると聞いております。詳しくは、東環協のホームページの法令改正等情報にリンクを張っていますのでご確認ください。

分析方法の改正としましては、2 月に廃棄物関係の測定法が改正され、9 月には JISK0102 が改正されました。廃棄物関係の告示 13 号においては、溶出液の作成方法の更新があり、JISK0102 では、新たに流れ分析、金属分析におけるキレート樹脂固相抽出などが加わりました。また、精度管理の観点から「試験結果の質の管理」の項が加わり、分析における精度管理の重要性を示しています。

本日の事例発表会は、特別講演として東京都計量検定所において、「環境計量証明事業所の立入検査状況について」御講演をしていただくことになりました。

常日頃より、事業規定に従い、測定方法の確認、記録、精度管理の実施を行っておられると思いますが、日常の忙しい業務の中でおざなりになっていることが懸念されます。今日の講演を参考にもう一度、業務を見直し、適正な分析が行えるようチェックをお願いします。

午後の事例発表会は、会員のみなさまの日頃検討されている身近な事例や今、話題となっている事例の発表を行いますので、日常の業務の中で疑問に思うことなどを遠慮なく質問して、情報交換を行ってください。

また、協賛企業の皆様の製品紹介もありますので、機器やソフトの購入の参考にして下さい。事例発表会の後、懇親会がございます。東環協の役割の一つは会員相互の親睦を深めることでもあります。懇親会も含めて事例発表会ですので最後までご参加ください。

本日の事例発表会がみなさまに有意義な研修会であることを願ひまして、挨拶とさせていただきます。

東京都計量検定所 高橋検査課長の挨拶



高橋課長

皆様、おはようございます。

ただいまご紹介を賜りました東京都計量検定所検査課長の高橋でございます。

本日は、「東京都環境計量協議会 第25回 環境測定技術事例発表会」が、このように盛大に開催されましたことを、心より、お慶び申し上げます。

また、この場にお招き頂きまして、誠にありがとうございます。

東京都環境計量協議会の皆様方には、日頃から私どもの業務に対しまして、大変深いご理解とご協力、多大なご支援を頂いております。

また、皆様方には、色々な場面で、大変お世話になっております。

東京都計量検定所におきましては、毎年、1月1日を計量記念日と位置づけまして、「都民計量のひろば」という名称で、計量に関する普及啓発を行っています。

先日、新宿駅西口の地下広場におきまして、「都民計量のひろば」を行いました。

この「都民計量のひろば」の、「環境と計量コーナー」におきまして、東京都環境計量協議会の皆様方に、大変なご尽力を頂きました。

この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

東京都環境計量協議会様におかれましては、技術研修会やこれから行われます技術事例発表会など、様々な取組みを実施されていらっしゃるの伺っております。

このような取組みのひとつひとつが、環境計量に関する技術水準の向上や、その普及に繋がっていくものと存じます。

ところで、私どもの東京都計量検定所でございますが、これまでもご案内させて頂いておりますが、来年の1月に、江東区新砂三丁目に移転いたしまして、来年の1月6日から業務を新庁舎にて行います。

現在、港区海岸一丁目に庁舎を構えておりますが、現在の庁舎での業務は、年末の12月27日までとなります。

庁舎移転のご案内につきましては、東京都環境計量協議会様、そして、計量証明事業者として

ご登録されている皆様方に、「東京都計量検定所の庁舎移転のご案内」ということで、別途郵送にて、ご連絡をさせていただきます。

どうぞ、ご理解とご協力を頂ければと存じます。

私どもの東京都計量検定所におきましては、今後とも、適正計量の確保に努めてまいりますので、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日は、特別講演ということで、「環境計量証明事業所の立入検査状況について」ということで、お時間を1時間ほど頂きました。

のちほど、私どもの所管の係長の清水から、ご説明させていただきます。

少しでも皆様方に、ご参考になることがありましたら幸いです。

最後になりますが、東京都環境計量協議会の皆様方の益々のご発展と、本日ご参会の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日はお招き頂きましてありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

第1部 特別講演「環境計量証明事業所の立入検査状況について」



清水係長

今年度の特別講演は、東京都計量検定所 環境計量器検査係 係長 清水千博様より「環境計量証明事業所の立入検査状況について」というテーマでご講演頂きました。講演内容は、(1) 環境計量器検査係の業務紹介、(2) 立入検査の事前準備、(3) 検査項目、(4) 指導手順、(5) 立入検査結果及び指摘事項、(6) 電子データによる保存、(7) 不適切な事業者の実態と優良な事業者の要件の順に分かり易く解説頂きました。

- (1) 環境計量器検査係では、主に①事業登録関係の事務及び立入検査・指導、②特定計量器の計量証明検査という二つの業務を扱っているそうです。
- (2) 立入検査の事前準備では、年度初めに立入計画を立案、これに従い立入先の計量管理者に電話連絡して日程調整、その後「用意すべきもの」を記載した文書を発送しています。
- (3) 実際の立入検査では、計量士がいるか？に始まり、規程類の整備状況、技術の維持・向上に努めているかといった点をチェックし、適正に事業運営できる体制となっているかを確認します。また、事業の実施状況について、設備・標準物質の管理状況、計量の方法、証明書の様式・記載内容、数値管理の状況などを記録で確認します。
- (4) 検査により指摘事項が発見された場合には、口頭で指導または文書で改善を指示し、改善方法等について文書での報告を求めます。指導・指示は、口頭指導（軽微な違反、改善報告は不要）、改善指示（改善報告書の提出を要求）、改善勧告（改善指示による改善が見られない場合）、警告（勧告に従わない場合）の順に、より強い指導を受けることとなります。ただし、東京都では警告まで至ったケースは無いそうです。
- (5) 昨年度の立入検査結果は、39 事業者（濃度 8、音圧 17、振動 14）を検査し、改善指導を受けた事業者は濃度 2、音圧 0、振動 1 だったそうです。内容的には、「特定計量器の検定有効期限が切れていた」、「未登録の特定計量器を使用して計量証明書を発行していた」、「計量証明事

業者ではない事業者より特定計量器をレンタルし計量証明行為をしていた」などです。また、今年度は9月までに29事業者に立入検査を実施し、改善指示12事業者、勧告2事業者となっています。

(6) 電子データによる保存では、記録及び計量証明書の電子媒体による保存が正式に認められました。実施にあたっては、改ざんを防止する方策を定めておく必要があるため、計量検定所に相談して欲しいと話されていました。

(7) 不適切な事業者の実態と優良な事業者では、不適正な事業者の例及び優良な事業者となるための要件について解説して頂きました。

聴講した当協議会メンバーからは、「検査側の切り口が理解できたので、大変ためになった」、「立入検査のポイントが良く分った」、「不適切な事業者と優秀な事業者の違いは、日々の管理、チェック体制、実務者の意識改革が重要である事が理解できた」など高評価の意見が多数寄せられました。当協議会では、今後とも計量検定所と連携して会員企業に有益な情報を提供していく所存です。

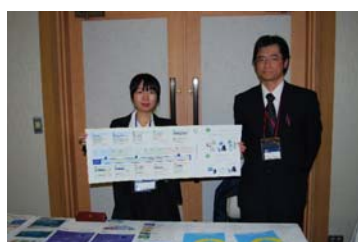


特別講演後の質疑応答

第2部 協賛展示企業による新製品紹介

今回の協賛展示企業は、①(株)エイビス、②ビーエルテック(株)、③ラボテック(株)、④(株)島津製作所、⑤日本インスツルメンツ(株)、⑥アジレントテクノロジー(株)、⑦メルク(株)の7社でした。第2部では、午前中3社、午後4社のスケジュールで新製品について1社7分の持ち時間でご紹介頂きました。各社共に機器のデザインと分析感度に技術を結集して開発している様子が伺われました。また、各社共に、当会からの購買オファーについては、最大限に努力するとの事でした。なお、ビーエルテック(株)、ラボテック(株)、日本インスツルメンツ(株)、アジレントテクノロジー(株)、メルク(株)の5社様は、当協議会の賛助会員でもあります。

【協賛企業】



(株)エイビス



ビーエルテック(株)



ラボテック (株)



(株) 島津製作所



日本インスツルメンツ (株)



アジレント・テクノロジー (株)



メルク (株)

第3～5部 会員企業による事例発表会

今年度の事例発表会は、水質濃度関係（底質含む）4題、大気濃度関係2題、騒音振動関係1題、放射線測定1題、その他（燃料油）1題の合計9題の発表でした。大変分野が多岐に渡るもので、毎回、質問も複数あり活発な質疑がなされたと思います。以下に各発表テーマの概要を記述します。

(1) 河川における濁度のリアルタイムモニタリング事例および

濁度の自然変動と河川水質や気象条件との関係

ヒロエンジニアリング(株) ○久木元 威仁、大池 裕

河川中の水質濁度のリアルタイムモニタリング (MOS) 法の提案で、具体的には監視対象水域で水中に多点設置した濁度計の測定値を無線通信で現場 PC に自動回収し、演算処理することで10秒間隔でもデータ収集できる。また、そのデータをインターネット上に配信することで20台程度のモニターから遠隔閲覧（発注者側など）することも可能であるとした。現場の測定例として隅田川河口に設置した例を紹介され、その結果によると、夏場天気の良い日などは浚渫工事を行わない日でも濁度が上昇する事が確認されたとの事である。今後はクロロフィル計も増設して濁った場合の原因が底質によるものか赤潮によるものか等を考察できるように改良するとの事であった。

(2) 燃焼イオンクロマトグラフィーを用いた燃料油中の硫黄の定量事例

(株)分析センター ○松本 詩帆、佐々木 健、杉崎 正千

軽油や重油といった燃料油中の分析方法は JIS K 2541 で多数規定されているが、ディーゼル車の排ガス規制が強化され、10ppm 以下の微量分析を迅速に行える現行法は少ない。そこで、RoHS 指令規制対象物質である臭素難燃剤 (PBB, PBDE) のスクリーニング法として汎用される自動燃焼

式ーイオンクロマトグラフィーを用いて燃料油中の低硫黄成分について定量分析およびその精度を検討した事例である。各種の硫黄分標準物質を用いて検討した結果、10wtppm～40,000wtppmの広範囲で精度良い定量分析が可能との事であった。

(3) 大気環境予測に天気予報を用いた場合の精度について

エヌエス環境(株) 東京支社 ○内田 英夫、大竹 小百合、吉田 大輔

大気環境予測に気象要素を(天気予報)加えて考察された事例発表である。具体的には、大気環境予測に天気予報を使用した場合、天気予報の誤差が実際に行われる大気環境予測に対して、どのような誤差となって影響するかを二酸化窒素の日平均予測の重回帰予測式を例にして検討した事例である。大気常時監視局で実測された値で求めた予測値と天気予報の値で求めた予測値を比較して、天気予報の誤差が予測値本来のバラツキに乗じるバラツキとして二酸化窒素濃度の標準偏差(ppm)で求めた結果、風速のバラツキとして1.1m/s、予測数値バラツキは0.002ppmとの事であった。これより天気予報の使用は、大気汚染の高濃度予測に対して大きな効果があると結論付けている。

(4) ICP-MS法によるPM2.5中のケイ素を含めた無機元素の多元素同時測定

(株)環境管理センター ○山岡 純子、奥村謙介、山田理恵 辻本浩子、杉江 昌

本報告は、環境省ガイドラインに挙げられているPM2.5中の30元素についてケイ素を含めて損失ないICP-MS法での前処理方法と測定方法を検討した事例である。具体的には、通常実施されるフッ化水素酸を使用した完全乾固分解でなく、マイクロウェーブ分解装置で加圧分解させてフッ化水素酸を残した状態で分解を終了させICP-MS法で分析する手法である。その結果、ケイ素、アルカリ金属、アルミニウム等PM2.5の環境基準値の $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ を勘案しても十分に下限値レベルを満足した測定が可能であったとの事である。

(5) 水質調査におけるポータブル測器の利用について～水質監視業務を例として～

三洋テクノマリン(株) ○吉永 一男、山本 恭資

水質調査に対するポータブル測器の利用について、水質監視業務のうち濁度監視調査例について航路浚渫工事を事例として発表された内容である。ポータブル測器については、水温・塩分・pH・DO・濁度などが現地項目として汎用されており、それは測器の精度向上と発注者の「海域環境の現状を早く知りたい」というニーズに対応したものであるとの事であった。濁度監視業務としての工夫は、予め濁度-SSの換算式を作成しておく事が重要であり、さらに濁り発生原因が降雨や荒天による底泥の巻上げ、植物プランクトンの増殖など自然現象と工事による場合とを区別するには、塩分、pH、DO、クロロフィル等との値との複合解析が有効との事であった。

(6) 某放送局からの音響測定依頼

[大阪環境測定分析事業者協会 交流講演] (株)OTO技術研究所 ○徳力 雪哉

本発表は、朝日放送(ABCテレビ)番組名:探偵!ナイトスクープにおいて2013年3月1日に放送された「声でワイングラスを割る男!」の内容を紹介頂いたものです。

まずは、ワイングラスを共振させる音響スペクトルを調査したら557Hz、1561Hz、2953Hzであることが分かった。次いで、出演者(ボイストレーナー)のTV音声を騒音計により分析し、先のワイングラスを共振させる周波数帯を含む声を分析して発生練習してもらい、その肉声で連続的に

ワイングラスに大音量の肉声を浴びせる事で見事にグラスを割った番組内容を映像で紹介頂きました。聴講者も他の事例発表とは、全く異なる発表内容であったため、大変興味深く聴講頂いた。

(7) 底質試料中の GC/MS 対象 POP s 一斉分析法の検討について

いであ(株) 環境創造研究所 ○高橋 厚、内田 圭祐、山内 慎、中村 好宏、稲葉 康人、松村 徹
本発表は、POP s 条約にある GC/MS 対象 POP s について、前処理及び測定手法の簡易化を目的として、エンドスルファンを含め、底質試料を対象とした一斉分析を検討したものである。具体的には、前処理として硫酸処理などクリーンアップ効果が高い手法を導入することで、前処理条件を構築した。実際に環境中の砂質試料を用いた実分析において MDL も「化学物質と環境」に記載ある値と同等の値が得られたとし、多くの GC/MS 対象 POP s の一斉分析が可能となったとしている。

(8) 空間線量率の現場測定における遮へい具の開発

(株)オオスミ ○岩崎 伸治

多くの除染工事現場において問題となるのは、除染対象場所の空間線量率、土壌の表面汚染密度ならびに表面線量率等を工事前後において評価する事であるが、放射線量のバックグラウンドについては、ガイドラインより鉛ブロックで遮蔽する事となっている。しかし、鉛ブロックは重量が重く、作業性も損なわれる。そこで、本発表では、その代替材として、鉛・タングステン等重金属を主材料とした新素材バイオラバー (RSM) を用いて遮蔽の実証実験を試みた。その結果、RSM 遮蔽具は $10 \mu\text{Sv/h}$ 以下の地域において、シンチレーションカウンターのプローブ先端検出器部分を 80 mm 以上覆えば鉛遮蔽具とほぼ同等の遮蔽効果が得られるとした。遮蔽具の重量は、約 3 kg で鉛の 1/4 程度であるため、除染効果を検証する際の大量測定において作業性の向上が期待できるとしている。

(9) ふっ素溶出試験における迅速分析方法の開発について

(一社) 日本環境分析測定協会 教育企画委員会 ラボテック(株) ○菅原 昇

現状の環境庁告示第 46 号 の公定法によるふっ素の溶出試験は、前処理操作として試料調製→溶出→試料濃縮→水蒸気蒸留→発色操作の各工程を伴う分析方法で、結果が得られるまで最低 2 日間程度の時間を要する。そこで、本発表は分析所要時間の大半を占める溶出操作の削減とアセチルアセトンを用いる発色操作を中心に、迅速に分析できる試験方法について検討したものである。その結果、本法では溶出時間の短縮と蒸留操作の省略により、6 時間以内に結果を得ることができた事例である。具体的には、3 時間振とう→アセチルアセトン添加吸光光度法を採用することで、6 時間以内にふっ素の分析結果が得られる迅速法を確立したもので、蒸留装置及びろ過装置の必要性もないため、吸光光度計があれば分析ができる省力化の方法であるとの事であった。

但し、本法は工程管理上で早急に結果を早く報告することを目的としたもので、計量証明行為として用いているものではないと付記している。



発表後の質疑応答の様子

事例発表会の後は、恒例の懇親会となりました。川東理事の司会進行により 17 時にスタートしました。鈴木会長の挨拶に続いて、大阪環境測定分析事業者協会(大環協)の石田会長より挨拶を頂きました。

石田会長からは、事例発表会での交流講演や精度管理のための共同実験について今年度から東環協の会員数にも門戸を開いた件等、大環協と東環協の交流について話があり、交流を通して大環協の活動にもご支援頂きたい、と語られました。引き続き、石田会長より乾杯のご発声頂戴し、懇親会が始まりました。



石田 大環協会長による乾杯

発表会でのピリッとした緊張感から一転、和やかムードの中、若手の参加者を中心に名刺交換や、発表者に再び質問する場面も見受けられ、参加者の交流が活発に行われていました。



発表者の皆さん

皆さん、お腹の方も満たされてきたところで、鈴木会長より、今回の発表者に対する記念品の贈呈が行われました。参加者からも、労をねぎらう盛大な拍手が送られました。さらに協賛頂いた各企業の皆さんにも壇上へ上がって頂き、一言ずつ頂戴いたしました。各社、一押しの商品・サービスのアピールが再度行われ、中には発表も含め、三度目の登壇となる方もいらっしゃり、絶えず場内が沸きあがっていました。



懇親会風景

途中、日環協により5年に一度実施されるアンケート調査について協力依頼などもありました。楽しい時間もあっという間に過ぎ、最後は竹田副会長のご発声により「中締め」となり、懇親会はお開きとなりました。



竹田副会長による中締め

会員企業の皆さま、大変お忙しい業務の中、毎年素晴らしい事例発表を頂いております。つきましては、より多くの方々、特に若い方々に是非参加して頂き、さらには登壇者として参加して頂くことで、引き続き環境計量・分析分野のパイオニアの創出に寄与して参りたいと思っております。

また、アンケートでは業務に直結していることもあり、特別講演についての関心が一番高く、発表会では大環協の交流講演が興味を持った方が一番多いという結果になりました。企画運営に関するご感想・ご意見や講演内容についてのご希望については、今後の運営に活かしていきたいと考えております。アンケートへのご協力感謝いたします。発表者及び協賛企業の皆さま、参加者の皆さま、本当にありがとうございました。

第 25 回 環境測定技術事例発表会プログラム

東京都環境計量協議会

平成 25 年 11 月 8 日(金) 会場：スクワール麹町

I. 開 会 (10:00~10:15)

総合司会	佐藤 隆 (東京都環境計量協議会 技術部会)		
主催者挨拶	東京都環境計量協議会	会 長	鈴木 幹夫
来賓挨拶	東京都計量検定所	検査課長	高橋 宏栄氏
来賓紹介	大阪環境測定分析事業者協会	会 長	石田 勝彦氏
	大阪環境測定分析事業者協会	技術委員長	松岡 幸逸氏
	大阪環境測定分析事業者協会	副技術委員長	孫本 勉氏

II-1 特別講演ほか (10:15~12:00)

第 1 部 座 長 竹田 良平 (ヒロエンジニアリング(株))

特別講演：「環境計量証明事業所の立入検査状況について」 10:15~11:15
東京都計量検定所 環境計量器検査係 係長 清水 千博氏

第 2 部 (午前の部) 協賛展示企業による新製品紹介① 11:25~11:50

《昼 食 & 展示コーナー見学等》 11:50~13:00

第 2 部 (午後の部) 協賛展示企業による新製品紹介② 13:00~13:30

II-2 会員企業による事例発表 (13:40~17:00)

第 3 部 座 長 池田 郁司 ((株)日新環境調査センター)

1. 河川における濁度のリアルタイムモニタリング事例および濁度の自然変動と河川水質や気象条件との関係 13:40~14:00
ヒロエンジニアリング(株) ○久木元 威仁、大池 裕

2. 燃焼イオンクロマトグラフィーを用いた燃料油中の硫黄の定量事例 14:00~14:20
(株)分析センター ○松本 詩帆、佐々木 健、杉崎 正千

3. 大気環境予測に天気予報を用いた場合の精度について 14:20~14:40
エヌエス環境(株)東京支社 ○内田 英夫、大竹 小百合、吉田 大輔

第 4 部 座 長 小牧 博信 ((株)環境総合テクノス)

4. ICP-MS 法による PM2.5 中のケイ素を含めた無機元素の多元素同時測定 14:50~15:10
(株)環境管理センター ○山岡 純子、奥村 謙介、山田 理恵、
辻本 浩子、杉江 昌

5. 水質調査におけるポータブル測器の利用について~水質監視業務を例として~ 15:10~15:30
三洋テクノマリン(株) ○吉永 一男、山本 恭資

6. 某放送局からの音響測定依頼 [大阪環境測定分析事業者協会 交流講演] 15:30~15:50
(株)OTO 技術研究所 ○徳力 雪哉

第 5 部 座 長 泉 健司 (エヌエス環境(株))

7. 底質試料中の GC/MS 対象 POPs 一斉分析法の検討について 16:00~16:20
いであ(株)環境創造研究所 ○高橋 厚、内田 圭祐、山内 慎、
中村 好宏、稲葉 康人、松村 徹

8. 空間線量率の現場測定における遮へい具の開発 16:20~16:40
(株)オオスミ ○岩崎 伸治

9. ふっ素溶出試験における迅速分析方法の開発について 16:40~17:00
(一社)日本環境測定分析協会 教育企画委員会
ラボテック(株) ○菅原 昇

III 懇親会 (17:00~19:00)

平成 25 年度 第 25 回環境測定技術事例発表会 参加者名簿

平成 25 年 11 月 8 日(金) 於 スクワール麴町

来賓

東京都計量検定所	検査課長	高橋 宏栄 氏
〃	環境計量器検査係 係長	清水 千博 氏
大阪環境測定分析事業者協会	会 長	石田 勝彦 氏
〃	技術委員長	松岡 幸逸 氏
〃	副技術委員長	孫本 勉 氏

発表者 (発表順)

No.	会 社 名	氏 名	備 考
1	ヒロエンジニアリング(株)	久木元 威仁	
2	(株)分析センター	松本 詩帆	
3	エヌエス環境(株)東京支社	内田 英夫	
4	(株)環境管理センター	山岡 純子	
5	三洋テクノマリン(株)	吉永 一男	
6	(株)OTO技術研究所	徳力 雪哉	大環協
7	いであ(株)環境創造研究所-	高橋 厚	
8	(株)オオスミ	岩崎 伸治	
9	ラボテック(株)	菅原 昇	

9 社 9 名

会員参加者

No.	会 社 名	氏 名	備 考
1, 2, 3 4	いであ(株)	鈴木 幹夫、海老澤 隆宏、近野 良哉 石丸 圭	
5	(株)伊藤公害調査研究所	長谷川 潔	
6, 7	エヌエス環境(株)	泉 健司、青木 秀樹	
8, 9	(株)化学分析コンサルタント	日山 貞由紀、加藤 まゆみ	
10, 11	(株)環境管理センター	斉藤 徹、仲地 史裕	
12	(株)環境技術研究所	小柳 伸彦	
13, 14, 15 16	(株)環境総合テクノス	種 鎮矢、太田 秀和、小牧 博信 中村 香織	
17, 18	(株)サンコー環境調査センター	鵜沢 茂樹、中島 健二	
19, 20, 21	三洋テクノマリン(株)	矢治 正司、藤身 諭、佐賀 一芳	
22	(株)ジェイペック	熊切 幸雄	
23, 24	新日本環境調査(株)	新井 葉子、奥田 啓司	
25, 26, 27	(株)総合環境分析	井上 和之、佐藤 雄嘉、日高 佑希	

28	(株)長大	星山 貫一	
29	(株)トーニチコンサルタント	川東 光三	
30, 31, 32	(株)東京環境測定センター	五十嵐 鋼、佐藤 伸彦、手倉森 健	
33	(株)日新環境調査センター	池田 郁司	
34	(株)日本公害管理センター	森末 祐希	
35	(株)日本シーシーエル	濱砂 眞澄	
36, 37, 38 39	ヒロエンジニアリング(株)	竹田 良平、石原 紀子、金子 恵 大池 裕	
40, 41, 42 43, 44, 45 46	(株)分析センター	佐藤 隆、佐々木 健、杉崎 正千 坂本 昌夫、奥富 康浩、上野 真利恵 松田 怜奈	
47, 48, 49	ムラタ計測器サービス(株)	池上 匡、矢田部 章、横山 容子	
50	明治コンサルタント(株)	山本 義男	
51	森永エンジニアリング(株)	高瀬 敏	
52, 53	ユーロフィン日本環境(株)	石山 直樹、篠崎 高志	
54	(一社)本環境測定分析協会	室田 知里	

25社 54名

協賛企業

- ・ アジレント・テクノロジー(株)
- ・ (株)島津製作所
- ・ ビーエルテック(株)
- ・ ラボテック(株)
- ・ (株)エイビス
- ・ 日本インスツルメンツ(株)
- ・ メルク(株)

7社 11名

総合計 79名

「都民計量のひろば」報告

東京都では、毎年11月1日の計量記念日に都民の方々に楽しみながら計量への関心を高めていただくために、「都民計量のひろば」を開催しています。今年も下記の内容でイベントが実施され、当協議会も環境と計量コーナーで出展協力致しました。

テーマ：メインテーマ「くらしと計量」 サブテーマ「生活まもる 正しい計量」

日時：平成25年11月1日（金） 午前10時30分～午後4時

場所：新宿駅西口広場イベントコーナー

主催：都民計量のひろば実行委員会

構成団体：東京都計量検定所、(社)東京都計量協会、東京都環境計量協議会等の18団体

当日、当協議会が担当した「環境と計量コーナー」では、恒例のイベントとして「環境問題や地球温暖化をテーマとしたクイズ」を実施し、クイズのヒントとなる「水質」「地球温暖化」「音の大きさのめやす」「PM2.5」に関するものの他、参加者の関心が高いと思われる「放射線量のめやす」についてのパネル計7枚、放射線量計、騒音計を展示しました。

クイズに参加された方々は、パネルを熱心に読んでクイズの答えを探し、行き詰った方はスタッフから説明を受けたりしました。その結果、ほとんどの方に正解していただきました。クイズ終了後、参加者にはリサイクル品のカード立てか松葉ガニの絵葉書をお渡しました。



クイズは大盛況



熱心な参加者の皆様



当日スタッフの方々



騒音計の出展準備

参加された方からは、「ニュースで聞くことの増えた「PM2.5」の意味が分かってよかった」、「環境問題の勉強になったので家族にもクイズをみせたい」という意見をいただきました。クイズ以外にも、「放射能」「大気汚染」への心配から、その内容について詳しく質問する方の姿もありました。

この他のコーナーでは、「計量体験コーナー」で参加者と工作をしたり、「健康と計量コーナー」では血圧や体組成などが測定されたりしました。「水道・ガス・電気と計量コーナー」では着ぐるみが応援に来たり、「食品と計量コーナー」では参加者と一緒に測定したり、「計量相談コーナー」では計量についてのなんでも相談がされたりしました。また、ステージのある場所では、「計量アトラクションコーナー」として水槽を身近に見ながらの計量マジックやマリimba演奏が行われ、人を集めていました。どのコーナーも、多くの参加者でにぎわいを見せ、今年の「計量のひろば」の盛況のうちに幕を閉じました。



着ぐるみも応援



水槽でのマジック



健康に関する計量のようす



地球温暖化について説明を受ける

関係機関・団体の動き

平成 26 年 2 月現在で、既に実施または今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

- 首都圏環境計量協議会連絡会
 - ・ 第 3 回委員会 12 月 6 日 神田
 - ・ 甲信越・首都圏環協連
の合同研修会 2 月 20 日 ホテルメトロポリタン長野
～21 日

- (一社)神奈川県環境計量協議会
 - ・ 賀詞交歓会・講演会 1 月 24 日 東邦クラブ
 - ・ 環境計量技術事例発表会 4 月 18 日 未定
 - ・ 通常総会 5 月 16 日 未定

- (一社)埼玉県環境計量協議会
 - ・ 技術講習会 12 月 11 日 さいたま共済会館
 - ・ 新春講演会 1 月 31 日 大宮サンパレス
 - ・ 技術講習会 2 月 21 日 With You さいたま

- 千葉県環境計量協会
 - ・ 親睦会 (ボーリング大会) 12 月 1 日 ラウンドワン 習志野店
 - ・ 新春講演会・賀詞交歓会 1 月 17 日 プラザ菜の花
 - ・ 通常総会 4 月 26 日 プラザ菜の花

- (一社)日本環境測定分析協会
 - ・ 新春交歓会 1 月 23 日 東海大学校友会館

東環協からのお知らせ

○平成 25 年度第 2 回（通算第 27 回）親睦ゴルフ大会報告

11 月 22 日（金）茨城県かすみがうら市にある千代田カントリークラブにて恒例となっている親睦ゴルフ大会（秋季）が開催されました。

晴天に恵まれ、総勢 14 名に参加頂きました。

1982 年開場の高低差 3m フラットな林間コースで、クラブハウスも豪華！チャーターヘリコプターでアクセス可能！

本来、年配者にもやさしいゴルフ場の筈ですが、上質なゴルフ場でのプレーでテンション上昇、スコアも急上昇（ゴルフは、スコアが少ない程良しとされるスポーツです）。

筆者のスコアは、さておき参加された皆さま全員、無事ホールアウトすることが出来ました。参加頂いた、皆さまありがとうございます。

また、表彰式を兼ねたパーティでは、ゴルフ談義に花が咲き、皆さま充分親睦を深められた様子でした。

次回は、来春の開催を予定しておりますが、残念ながら今回ご参加頂けなかった皆さまも是非ご参加頂きますようお願いしております。



○平成 25 年度：今後の主要行事予定

- ・今年度の行事は全て終了しました。

○平成 26 年度：今後の主要行事予定

- ・平成 26 年度第 37 回通常総会及び懇親会 5 月の予定
- ・第 28 回親睦会 6 月の予定

○事務局からのお知らせ

- ・平成 26 年度の通常総会は、詳細が確定しましたら、ご案内を差し上げます。

現在の会員数（平成26年 2月現在）

正 会 員	77社		
賛助会員	9社	合 計	86社

- ・会員の代表者の変更

① エヌエス環境(株)【会員名簿 正会員No.5】

新代表者：代表取締役社長 浅野 幸雄

- ・編集後記

遅くなりましたが、賀詞交歓会と昨年開催された環境測定事例発表会を中心に編集した、平成 25 年度の最後の「東環協ニュース」第 155 号を発行いたしました。

来年度も東環協の更なる発展のために事務局として、微力ながら尽力していきたいと念じております。今後ともよろしくお願い申し上げます。